

製品名: カスパーゼ-2 (リン酸化 Ser157) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04367**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CASP2
別名	CASP2; ICH1; NEDD2; Caspase-2; CASP-2; Neural precursor cell expressed developmentally down-regulated protein 2; NEDD-2; Protease ICH-1
遺伝子 ID	835.0
SwissProt ID	P42575
免疫原	抗血清は、Ser157 のリン酸化部位周辺のヒトカスパーゼ 2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 123-172

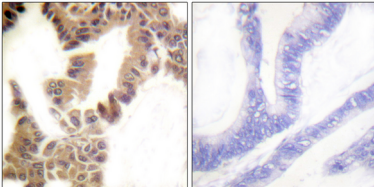
背景

この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードします。カスパーゼは、特定のタンパク質基質をタンパク質分解的に切断することにより、細胞のアポトーシスを誘導します。コードされているタンパク質は、ストレス誘導性細胞死経路、細胞周期の維持、および腫瘍形成の抑制に機能する可能性があります。この遺伝子の発現亢進は、アルツハイマー病、ハンチントン病、側頭葉てんかんなどの神経変性疾患において役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。 [RefSeq 提供、2011年1月]、代替製品:アイソフォームは N 末端と C 末端で異なります。、触媒活性:P1 に Asp 残基が厳密に必要であり、316-asp はタンパク質分解活性に必須であり、優先切断配列は Val-Asp-Val-Ala-Asp-| です。、機能:アポトーシス実行を担うカスパーゼの活性化カスケードに関与しています。細胞死に必要なタンパク質を活性化するか、細胞生存に必要なタンパク質を不活性化することで機能する可能性があります。、PTM:成熟プロテアーゼは自身のプロペプチドを処理できるが、他のカスパーゼのプロペプチドは処理できない。、類似性:ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。、類似性:1つの CARD ドメインを含む。、サブユニット:p18 サブユニットと p12 サブユニットからなる 2つの逆平行に配置されたヘテロダイマーからなるヘテロテトラマー。LRDD と相互作用する。、組織特異性:胎児期の肺、肝臓、腎臓では、心臓や脳よりも高いレベルで発現する。成体では、胎盤、肺、腎臓、脾臓で、心臓、脳、肝臓、骨格筋よりも高いレベルで発現する。、

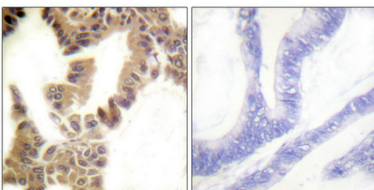
研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌の Caspase 2 (リン酸化 Ser157) 抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。